



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教 100～110 周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

2015年2月1日(日) 第738号

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ☎ 03-3202-5398
 発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 shinacho2003@daum.net (担当者)

< KCCJ / CCJ >

第15回 宣教協力委員会開催



2014年11月18日、大阪教会にて「第15回日本キリスト教会との宣教協力委員会」が開かれた。在日大韓基督教会からは、金性福総会長をはじめとして12名、日本キリスト教会からは田部郁彦大会議長をはじめとして5名が出席した。

開会礼拝・各教会の近況報告の後、協議に入った。毎年議題にのぼる両教会の宣教協約関係の内実化や、信仰継承の問題について意見を交換した。その後、2015年11月に開催予定の第三回「マイノリティ問題と宣教」国際会議に関する協力体制について話し合った。在日大韓基督教会が命運をかけて開くこの大きな会議に、「宣教協約教団としてしっかりと協力を願いたい」という要請を、日本キリスト教会側は真摯に受け止め、持ち帰って協議したいと応えた。

委員会後、午後7時より、両教会の主催による公開集会「この時代、キリスト者の使命とは？」が開かれた。まず古賀清敬牧師(北星学園大学教授/北海道中会宣教牧師)より「わたしの人権と東アジアの平和とキリスト教」という題目で講演があった。

続いて、金成元長老(大阪教会/大阪KCC館長)が「共生社会に向けたキリスト教会の役割」という題目で、主にヘイトスピーチ問題に関する講演をした。

また「ヘイトスピーチによって表現の自由を侵されているのは、攻撃対象になっている人々だ。彼らは自分がその攻撃対象であると言うことを証すことが出来ない」と述べた。集会には、日本キリスト教会側、在日大韓基督教会側合わせて70名ほどが出席した。

(報告:許伯基)

< 行動する預言者、崔昌華! >

出版記念会 開催

故・崔昌華牧師(1930～1995年)の評伝である『行動する預言者崔昌華—ある在日韓国人牧師の生涯—』(田中伸尚著、岩波書店)の出版記念会が、2014年11月30日(主日)、故人が34年間在任した小倉教会で開かれた。

著者である田中氏は、『大逆事件—死と生の群像』(岩波書店)で、第59回日本エッセイスト・クラブ賞を取った優れたノンフィクション作家である。全国から80名が参加し、故人への思い出と書評で盛り上がった。

田中氏は、崔牧師について、「崔」という名を「チォエ」と民族語音読みすることを要求しながら、指紋押捺を拒否し、同じ地に住む人間として、在日の人々の尊厳の回復を求めた。その闘いを「神の言葉の<現実>が必ずいつかその通りになると信じて闘った」預言者の姿だった」と述べた。これに参加者は共感したので、在日の少数民族を知らない人々と在日の若者に、この本が読まれることを期待する。



また、本書は、時代の背景が克明に記されているので、戦後来日した同胞の実情や日本の外国人政策、在日教会、在日個人史を垣間見せる。死後20年経っても、その行動を追跡し内面に踏み込むことができたのは、故人が残した膨大な資料と遺族の熱意と著者の文筆力によると言える。

崔牧師があれほど精力的に行動したのは、信仰だけでは語れない。故人を育てた教会と神学校は、社会の救済よりも個人の救済の傾向が強かった。そして、朝鮮半島の共産主義下であった故郷の平安北道(宣川)での辛い体験と済州道の4・3事件で「地獄」を見たことが、理不尽な社会と勇敢に闘う力となったと推測される。本書は、過去の不幸な歴史を神の御言葉として預かった人は、祈りと共に動き出すことを追いかけている。

(購入:西南KCC、著者価額2800円、定価3000円+税金)

(報告:朱文洪)

<関西地方会> 聖歌隊連合会 光明園家族教会訪問



関西地方聖歌隊連合会(関聖連)は、年に1度、岡山県瀬戸内市にある国立療養所邑久光明園内、日本キリスト教団光明園家族教会を訪問する。この行事は、1996年に始まり、2014年9月15日の訪問で19回を数えた。

礼拝前には、難波幸矢長老の案内で、島内ハンセン病歴史資料館と火葬場跡のフィールドワークを行なった。そして礼拝は、大阪教会リトルジェイズのこどもたちの讃美で始まり、高槻伝道所の崔春子牧師が「涙を詩に」(詩篇126篇5～6節)という題で説教した。その後、関聖連が「内 눈을 여소서」、「誰かが祈る」を讃美した。メッセージを語る者も讃美する者も魂から語り、讃美した。

交流会では、高槻伝道所の金容賢長老がバイオリン演奏をした。さらに、各人の証しや感動の報告がつきることなく讃美が続いた。光明園家族教会の山岡憲一長老からは、「光明園家族教会にあるピアノは、ピアノが好きで弾きたいという在日同胞入所者に、韓国の姉妹5名が贈ってくれたものなんです」というエピソードを披露した。

この礼拝に家族教会入所者の方の参加は3名であり、入所者の多くを天国に送り、残る者も病に伏すようになった。

「皆さんもこの恵みにあずかりませんか。皆さんも出向いては見ませんか」。

(全文は、総会ホームページをご覧ください。)

※連絡先：日本キリスト教団光明園家族教会

難波幸矢(なんば・さつや)

〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253

(T・F 0869-25-1277)

(報告：慎香、大阪北部教会)

<全国青年会協議会> 第1回 中央委員会開催

2014年11月1日(土)～2日(主日)、大阪北部教会において、青年会全国協議会「第1回中央委員会」が開催された。

まず、李信三会長が祈りをした後、各部報告と各討議を行った。討議事項は、以下の通りである。

- ①全協誕生50周年を記念しての冊子を発行する。
- ②全協の会則・規則を見直し、修正することを確認。
- ③会長だけではなく、全協委員全員で考えた新しい会則を一年間かけて修正しながら総会までに採択しよう。
- ④2015年3月2日に行われる共プロのプログラム。
- ⑤2015年、大阪教会にて行われる青年のための研修について(2015年2月15～16日)。
- ⑥主題(発題)について。
- ⑦現在は交流が途絶えてしまっている西部地方会の青年と再び交流を持とうということを目指す。



会議後、中央委員会として初めての試みとして関西にいる青年が来て交流会をもった。その流れから平野教会と共に祈禱会をした後、サンギョサルと一緒に食べながら交わりをした。

翌日は、関西の各教会(大阪北部教会・京都教会・神戸教会・武庫川教会・平野教会)に個教会訪問を行った。個教会献金は151,200円だった。このように全協が活動できるのは、このような祈りと援助があるからである。

(報告：青年会全国協議会)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。

- ・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
- ・韓国文化教室【チャンゴ・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
- ・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講》募集中 韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

< CCA-JID 部門委員会に出席 > スリランカ NCC100 周年記念



2014年10月21～22日、アジアキリスト教協議会 (CCA) の JID (正義と国際開発および奉仕) 部門委員会がスリランカのコロンボで開かれ、日本からは JID 委員である許伯基牧師が参加した。この委員会はスリランカキリスト教協議会 (NCCSL) の創立 100 周年記念行事に場所と日程を合わせて行われたもので、CCA は各国のこのようなエキュメニカル・イベントにできるだけ多くの国から参加者が集まり、アジアのキリスト教の団結を高めることができるように、と配慮している。

この JID 部門委員会には、タイ、オーストラリア、フィリピン、日本、そしてスリランカからそれぞれ委員を、そして CCA から総幹事であるヘンリエット・フータバラット・ラン博士とスタッフのスーザン・ジェイコブ氏を集めて行われた。CCA は今年の 5 月にインドネシアで第 14 回総会を開催するが、これはその総会に向けての準備であった。まず、各国のエキュメニカル運動と社会状況についてシェアがされた後、CCA-JID がアジア各地でこの 4 年の間に行ってきた平和、人権、環境などに関する様々なプログラムの活動報告を受けた。活動報告の合間に分かち合われた問題点で印象的だったのは、CCA が深刻な財政危機に慢性的にさらされており、その原因はこれまで CCA が西欧の教会の資源に頼りすぎてきたということ。しかしこの財政危機を CCA 加盟教団はむしろ「恵みの時 (moment of grace)」であって、CCA の活動を支える機会である、ととらえるべきであるということ。

レホボト・ジャパン
Christian Calling Search Site
http://www.rehoboth.jp
Tel: 090-2945-3373
e-mail: info@rehoboth.jp
住所: 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘 10-35
レホボトジャパン (検索)

その支えの方法として、決して CCA に例えばこのスリランカでの委員会開催のように、ホスト国の教会が会議開催を財政的に支えたり、各委員の所属教団・団体が必要な飛行機代を負担したりする方法がある、ということだった。(実際に、許牧師の参加は、在日大韓基督教会が派遣者の飛行機代を負担する、というかたちの寄付によって実現した)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

JID 部門委員会が終わった後は、引き続きその週の間中行われた NCCSL の 100 周年記念行事に参加した。神学協議会や感謝記念礼拝など様々な行事がある中で、もっとも強烈だったのはバンダラナイケ記念国際会議場という巨大なホールを借り切って行われた 100 周年記念式典だった。

スリランカの現大統領や WCC のアグネス・アブオム議長が出席する中、賛美やワーシップ・ダンス、シンハラ族、タミル族、その他の少数民族の民族舞踊、そして NCCSL の歴史を紹介するプレゼンテーションや、功労賞の授与式など、盛りだくさんのプログラムが進められた。

今回初めて知ったことは、エキュメニカル運動の出発点とされるエジンバラ世界宣教会議 (1910 年) の直後に、当時イギリスの植民地であったインド、ビルマ (現ミャンマー)、セイロン (現スリランカ) で宣教師によって NCC が設立され、それが後に各国の独立に従って分立していった、ということだった。よって、ミャンマーとインドでも NCC が創立 100 年となり、これらはアジアで最も古い NCC である。

NCCSL は日本の NCCJ と同じく「キリスト教協議会」であり、教団教派だけでなく、YMCA, YWCA, 聖書協会、学生キリスト教連盟 (SCF) など含まれる。NCCSL は設立以来、社会福祉や障がい者・子どもの権利擁護、女性の地位向上などに多大な貢献をしてきた。

またスリランカ内戦においては仲介役を務め、内戦後にはシンハラ族とタミル族の和解のための事業や、兵士たちの社会復帰事業などに力を注いでいる。また NCCSL の中での交流と絆がもとになって、長老教会、バプテスト、メソジストの諸教派が合同して、スリランカ合同教会が生まれるなど、実にダイナミックな役割を担う組織である。

仏教やイスラム教のイメージの強いスリランカであるが、人口の 7% 以上はクリスチャンであり、その影響力は、現職大統領が NCC の記念行事に参加することから見ても、相当なものである。

アジアのキリスト教の底力を垣間見る貴重な体験をさせていただいた。

(報告: 許伯基)

豊かな味、豊かな心。

妻家房
SAIKABO
代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)
四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜西部地方会＞日キ教団兵庫教区と 第31回韓日交流信徒大会

1月12日(成人の日)に、西部地方会と日本基督教団(以下、教団)兵庫教区共催による「第31回韓日交流信徒大会」が教団の神戸聖愛教会で開催された。

この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約をふまえ、西部地方会と兵庫教区とが協約の実施をめざし、1985年以来、毎年1月の成人の日に開催して来ている。今回は、154名(西部地方会53名、兵庫教区101名)が参加した。

開会礼拝は、朱京中(武庫川教会)大会委員長の司会で、本会の恒例となりつつある韓日合同聖歌隊によるハレルヤコーラスが奉唱された後、金鐘賢牧師(浪速教会)が「愛の奇跡」(マタイによる福音書14:15-21)と題して説教した。そして、小栗献牧師(神戸聖愛教会)の司式で聖餐式の後、同牧師の祝祷で礼拝を終えた。席上献金は浪速教会・愛の家(ホームレス伝道)のためにささげられた。



中江洋一牧師(西部地方会会長)と菅根信彦牧師(兵庫教区総会議長)の挨拶後、後藤聡牧師(梅花教会)から「宣教協約の精神を確認する」という提言があった。そして、9つの分団に分かれ昼食をともにし、互いの信仰生活上の諸問題に対して意見交換をした。今大会の新しい試みとしては、5つの分団(「家庭・信仰の継承」、「これからの教会学校」、「讚美・教会音楽」、「教会と社会」、「青年の分団」)を作り各自が選べるようにしたことである。

引き続き、金鐘賢牧師が「釜ヶ崎愛の家、ホームレス伝道の今」と題して講演した。さらに、講演の中で、元ホームレスの信徒たちと牧師夫人によるダンスと讚美があり、聴衆の胸を大きく揺さぶった。

阪神淡路大震災から20年目、そして宣教協約締結から30年目という節目の年に、韓日の信徒が神戸に集って、共に礼拝を捧げ、魂の交流をするということの意義を各自が再確認した。

(報告:林英宰、武庫川教会)

＜関東地方会＞ 船橋教会 日キ教団議長、石橋秀雄牧師が



「在日大韓基督教会と日本基督教団との交流だと言ったら、ちょっと大げさかな?」と言いながら、2014年12月14日、船橋教会は、日本基督教団議長である石橋秀雄牧師(越谷教会)を招いて主日礼拝をした。

石橋牧師は、開口一番、「幸せなら手をたたこう、幸せなら手をたたこう、趙先生歌っていいですか。幸せなら態度で示そうよ。それみんなで手をたたこう」と、歌い出した。また、「イエス・キリストにあって一つになれる、在日大韓基督教会の総会長である趙重來牧師との交わりを持つことを光栄に思います」と述べた。さらに、「今起こっていることも、将来起こることも、あなたがたは、キリストのもの。キリストは神さまのもの。クリスマスの時期に船橋教会に招かれたことは神の恵みである」と挨拶した。

趙牧師は、今現在6年前の病が再発し入院している。主日を守るため、週末または主日に外出し、月曜日に病院に入院している。それなのに、趙牧師は常に「日本基督教団と在日大韓基督教会は、お互いに仲良く宣教協力のもとで往来した方が良い」と語っている。それゆえ、今回、石橋牧師の礼拝訪問が船橋教会で実現されたのである。

主日礼拝後、石橋牧師からのサプライズもあった。それは、「あなたの名前は何て言うの?」と歌いながら腹話術をしたことである。「隣人を愛せよ」のテーマで、良きサマリア人の物語だった。

最後に、金道子引退長老は、「趙重來牧師の回復のため、韓日の友好のため、お祈りをいたします」とお願いをした。

(報告:編集部)

福音新聞2015年2月号の「韓国語版5,6面」は、編集の都合上、「東京教会の判決文」(日本語)を掲載致します。判決文の全文(韓国語・日本語)は総会のホームページでご覧になれます。

※**한글판 5,6면은 판결문(일본어)으로 대신합니다.**